

平成 20 年度第 2 四半期（平成 20 年度上期）決算に関する主な質疑応答

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

本日発表致しました平成 20 年度第 2 四半期（平成 20 年度上期）の業績等につきまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。なお、決算発表の概要については、「記者発表」資料をご参照ください。

www.smfg.co.jp/investor/financial/latest_statement/h2009press_pdf/h2009_3_01.pdf

1. 業績関連

Q1. SMBC 単体の与信関係費用が前回業績予想対比増加した要因について説明してください。

A1. 平成 20 年度上期における SMBC 単体の与信関係費用は 2,241 億円と、平成 20 年 5 月公表の前回業績予想の 900 億円対比では、約 1,300 億円の増加となりました。これは、国内では建設・不動産業を中心として取引先企業の業況悪化等による劣化が発生したことや、平成 20 年 9 月のリーマンブラザーズの破綻等世界規模の金融危機のなか、一部海外金融機関宛債権に想定外の処理コストが発生したことが主な要因です。

2. バランスシート関連

Q2. 貸出の増減状況及びその要因について教えてください。

A2. 平成 20 年 9 月末の貸出金残高（SMBC 単体）は 58 兆 5,420 億円と、平成 20 年 3 月末対比約 1 兆 6,000 億円の増加となりましたが、これは、海外店（含む特別国際金融取引勘定）における貸出金が、高格付先企業の資金ニーズに積極的に応えたことを背景に約 21,500 億円増加したことが主な要因です。一方、国内店（除く特別国際金融取引勘定）では、国庫向けの貸出が減少したことを主因に約 5,700 億円の減少となりました。

Q3. 連結自己資本比率が低下した要因について教えてください。

A3. 平成 20 年 9 月末における SMFG の連結自己資本比率（速報値）は 10.25%と、平成 20 年 3 月末比で▲0.31%の低下となりましたが、これは、株価の下落等によりその他有価証券の評価損益が減少したこと等により補完的項目（Tier II 資本）が減少したことが主因です。なお Tier I 比率（速報値）は、当期純利益の積み上がり等から平成 20 年 3 月末比で+0.14%改善し、7.08%となっております。

3. 業績予想関連

Q4. 平成 20 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）予想について前年比の増減要因を教えてください。

A4. 平成 20 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、平成 19 年度比▲約 200 億円減益の 8,000 億円を見込んでおります。業務粗利益は、国内貸金収益において貸出金利鞘低下による減少や、景気後退懸念の強まりと不安定なマーケットの影響による運用ニーズの低迷等による非金利収益の減少を見込む一方、海外市場での収益性の高いアセット投入により国際部門収益が増加することや、前年に計上したサブプライム関連の損失がなくなることで市場営業部門収益が増加すること等から、約 250 億円増益の 1 兆 5,100 億円を見込んでおります。一方、経費は、成長事業領域の強化のための人員増強、システム投資や、拠点網拡充のための投資の増加等により、平成 19 年度比約 450 億円増加の 7,100 億円を見込んでおります。内外事業環境における不確実性・不透明性が高まる中、経费率（SMBC 単体）の 40%台確保を通じた事業の効率性確保を図ってまいります。

Q5. 平成 20 年度の SMBC 単体のクレジットコスト見込みについて教えてください。

A5. 平成 20 年度の SMBC 単体のクレジットコストにつきましては、平成 20 年度上期に、金融市場の混乱及び国内外の景気減速を背景として、債務者の業況悪化による想定外の処理コストが発生したこと等を踏まえ、前回業績予想対比で+1,900 億円増加の 3,700 億円を見込んでおります。下期においても、上期に引き続き国内外の景気減速を背景とした処理コストの発生が予想されますが、環境の悪化を踏まえた、取引先企業へのよりきめ細かい対応等により、劣化の抑制を図ってまいります。

Q6. 平成 20 年度の株式等損益の見込みについて教えてください。

A6. 平成 20 年度の SMBC 単体の株式等損益につきましては、日経平均株価で 9,000 円を前提に、▲1,100 億円程度を見込んでおります。

Q7. 平成 20 年度業績予想の前提とした金利・為替水準について教えてください。

A7. 円金利は、平成 20 年 5 月公表の前回業績予想と同様、20 年度中の政策金利の変動はない前提としており、今般の政策金利 20bp 引き下げを織り込んでおりませんが、金利低下には、流動性預金等の利鞘の縮小といったマイナス影響がある一方、保有債券の評価損益の改善、売却時の評価益の実現というプラス影響もあることから、全体としては収益への影響は限定的とみております。為替相場については、前回業績予想と同様 105 円を前提としています。